

報告4：梁 有紀（富山大学）

『申報』文芸欄「白茅」について

『申報』影印説明（上海書店 1982 年 10 月）によれば、「『申報』は一八七二年四月三十日（清同治十一年三月二十三日）に上海で創刊され、一九四九年五月二十七日終刊に至り、旧中国で出版された期間の最も長い新聞紙である」とある。また、その間、「抗日戦争初期には、上海『申報』は一度停刊し、あいついで、漢口版（一九三八年一月十五日から七月三十一日）、香港版（一九三八年三月一日から一九三九年七月十日）が出版された。一九三八年十月十日に『申報』は上海で復刊した。一九四一年十二月八日太平洋戦争勃発後、『申報』は敵の偽政権下で出版された。」とある。

新文学誕生以降、主たる文芸欄となる「申報自由談」は、1911 年 8 月 24 日頃から始まり、1920 年代には、「常識」欄（法・道徳系）、「遊芸叢刊」、「平民周刊」等の関連欄を伴いながら、「自由談」は、1935 年 10 月 31 日に一旦休止となる。1938 年 10 月 10 日に復刊するも、1942 年 6 月を機として、1942 年 12 月以降は日本との時局面が多くなる変化を伴い、1943 年 8 月 13 日に「自由談」は休止となる。

「自由談」休止中の 1937 年は、「申報 文芸専刊」「申報 娯楽専刊」「児童専刊」「春秋」欄等で、文学芸術が紹介される。復刊後の 1942 年には、「春秋」「風雨同舟」欄とともに、「小談」「健康」「隨筆」等の欄を持つ「自由談」は、特に「小談」欄を中心として興味深い文学等も掲載されるが、1943 年 8 月 13 日休止後は、文芸・文学は、「申報周刊」1943 年 9 月 6 日復刊 1 号として受け継がれていく。

文芸欄「白茅」は、1943 年 3 月 7 日星期日（日曜日）に発刊された。以後日曜（七）（白茅 1-2）、月曜（五）（白茅 3-18）、月曜（四）（白茅 19）、水曜（四）（白茅 20-25）に掲載され、1943 年 9 月 6 日の「申報周刊」復刊後は、「申報周刊」（一）に掲載されるようになり、月曜（白茅 26-47）、金曜（白茅 48-69）、日曜（白茅 70-104）、土曜（白茅 105-116 申報周刊復刊 91 号 1945.7.7）に掲載される。

その後、木曜（二）（白茅 117-118）、金曜（二）（白茅 119・1945.8.3）、木曜（白茅 120・1945.8.9、白茅 121・1945.8.16）に掲載される。

そして 1945 年 8 月 20 日、「自由談」が復刊となる。

『申報』文芸欄「白茅」は、近現代中国大型新聞『申報』の主たる文芸欄「自由談」の間隙を補うように、日中戦争末期の文芸欄として存在した。

「白茅」の中身を見てみたい。